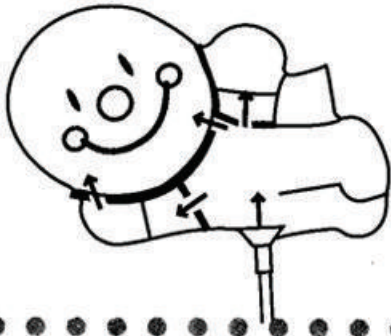


# 顔と体、腕が分かれている スティックバルーンの膨らまし方



スティックから注入した空気は矢印の方向に流れていきます。空気がつかえた状態で無理に注入すると破損のおそれがございます。



①ハンドポンプを利用し、スティックの先端からゆっくり空気を注入していきます。



体からふくらむ

②体の部分が膨らんだら、一度注入をストップします。



顔に空気を送り込む

③体の部分を手で押さえ、顔や腕に空気がスムーズに流れるよう補助します。



顔と体がバランスよく膨らむように

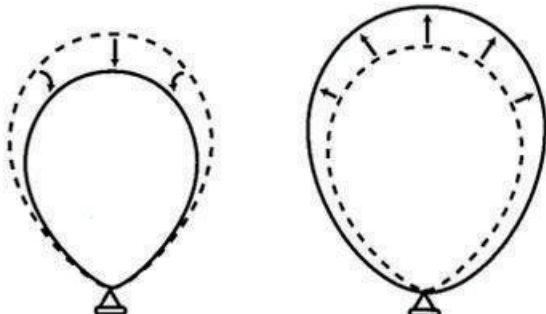
④空気の通り道が確認出来ましたら、顔表面に張りが出るまで膨らませてください。空気の入れすぎに注意してください（顔のシワ下記参照）



⑤気温による空気の膨張を、図1を参考にし、余裕をもって注入してください。

図1 外気の温度による変化

- 注入後外気の温度が低い場合 収縮します
- 注入後外気の温度が高い場合 膨張します



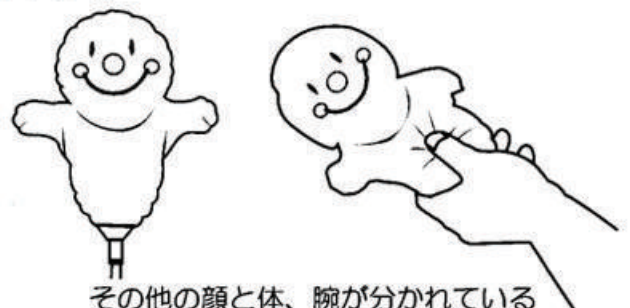
バルーンは冷たい空気にあるとしぼみ、暖かい空気にあると再び大きくなる特徴がございます。膨らます場所と使用する場所で温度差がある場合には膨らまし方を調整する必要があります。

このシワの長さを  
見てください。



気温による基準となるシワの長さ				
10℃	15℃	20℃	25℃	30℃
26mm	25mm	24mm	22mm	20mm

ポイント



その他の顔と体、腕が分かれているスティックバルーンを膨らます時も必ず同じ方法で膨らましてください。